



龍門

題字は石野忠氏の揮毫

発行者
関東小山田会
(鹿児島県加治木町小山田を愛する会)
第5号
平成23年4月23日

始良市誕生祝賀会・懇親会

平成22年9月25日(土)中野サンプラザにて、東京加治木会・関東始良町会・関東蒲生会共催で開催されました。



おめでとうございます

昨秋の叙勲で石野忠氏
瑞宝双光章を
受賞されました。



未曾有の東日本大震災

3月11日午後2時46分、東北地方で発生したM9.0という巨大地震、大津波は各地に甚大な被害をもたらしました。被災されました方々あるいは関係者の皆様には心よりお見舞申し上げます。つきましては、大震災の影響による交通機関の混乱や計画停電の実施、あるいは原発事故の影響拡大なども危惧されております昨今の情勢から、4月23日に予定しておりました第12回「関東小山田会」の開催を見送る決定をさせて頂きました。改めて、今秋頃の開催を模索してまいります。会員の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

関東小山田会 会長 二之方信良

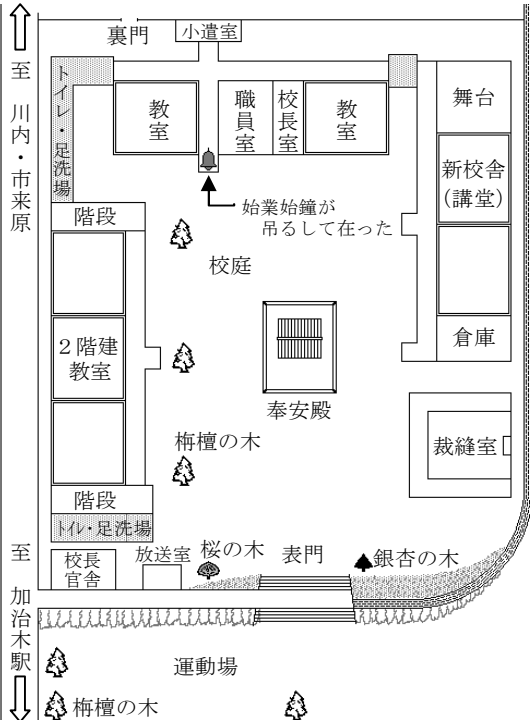
昭和十七年、尋常小學校から国民學校へと替わり、日本が、太平洋戦争へ突入した時代です。運動場上の、狭い水路道を通り、コンクリート造りの、なだらかな坂を登ると、校庭が広がり、正面に奉安殿、右手に大きな銀杏の木、そのすぐ前に畳み敷きの裁縫室(何畳在ったのか?)、その並び直角に舞台付き講堂を兼ねた新校舎が二教室(講堂では、教室間仕切りを取り外し、正月一日の新年の行事、国家祝日の行事、入学式、卒業式、学芸会等が行われていました)、軒を連ねる様に左に直角に平屋の教室が一室、棟続きに校長室、教員室、又教室、と続き、左直角にトイレ、屋根付きの渡り廊下(足洗場・水飲み場を兼ねた)



第三代会長
藪田 豊

我が龍門の思い出

私私が小学に入学したのは、昭和十七年、尋常小學校から国民學校へと替わり、日本が、太平洋戦争へ突入した時代です。運動場上の、狭い水路道を通り、コンクリート造りの、なだらかな坂を登ると、校庭が広がり、正面に奉安殿、右手に大きな銀杏の木、そのすぐ前に畳み敷きの裁縫室(何畳在ったのか?)、その並び直角に舞台付き講堂を兼ねた新校舎が二教室(講堂では、教室間仕切りを取り外し、正月一日の新年の行事、国家祝日の行事、入学式、卒業式、学芸会等が行われていました)、軒を連ねる様に左に直角に平屋の教室が一室、棟続きに校長室、教員室、又教室、と続き、左直角にトイレ、屋根付きの渡り廊下(足洗場・水飲み場を兼ねた)



昭和17年頃 龍門小学校の校舎配置図

三本の大きな(子供が三、四人で抱えても抱えきれない程の)梅檀の木が聳え立ち校庭に日陰を作り、枝には真竹が括り付けてあり、

其れをよじ登ったり、日陰で色々の遊びをしたものです。運動場の周りや、運動場の真ん中にも、同じ様な梅檀の木があり、秋には梅檀の実を食べたりもしました。



昭和17年頃 職員室前にて1年生



現在の大井上神社の遠景

春には学校の桜と、大井上神社の桜と競い咲き、秋には銀杏が黄色に色付き、わが故郷は、美しきかな、でした。

一年時は永吉スギエ先生、二年時の受け持ちは小田原郁子(柳)先生、もう百歳にお近いのでは、現在国分にお住まいで未だに年賀状を頂いています。三年生時は辻先生、この頃は、日本は戦勝ムードで、子供達はまだまだ伸びやかであったかな？三年の半ば頃から、日本の状況も急変し、我々子供達にも、色々の苦難の時代となり、四年の受け持ちの別当先生は招集で出兵されました(無事に帰還さ

れ、今でも年賀状を頂いています)。四年生以上の軍事訓練、校舎は鹿児島本土決戦に備え、北海道の念部隊の宿舎となり、我々は農家の軒先、茶碗屋の集会所に移り勉強、又加治木・小山田の空襲による戦災、終戦と目まぐるしい時代でした。その後の、五・六年担任は鑑野先生・辰野先生、中一、日高先生、中二・三の宮脇信男・郡山右一郎先生、大脇先生、(皆様故人となられました)職員室に掲げられた「誠実・明朗」の教育目標、地区対抗の運動会・運動会の歌等々に付いては又機会があれば話したいと思えます。



奉安殿が見える戦中の集合写真

私が、今更皆さんも良くご存知の、昔昔の学校の建物の様子など書き連ねたのは他でもないのです。関東小山田会が発足して十年を過ぎた今でも、少人数では有ますが、懐かしい故郷の話や、夫々の現状報告等をし合い楽しい一日を過ごさせて貰っているからです。

そこで皆さんに、あの話のそこは違うよ、あそこはそうだったねと、小山田会に、ご無沙汰の方々に参加して頂き、懐かしく話し合いたいな・・・と、是非小山田会にご参加ください！



奉安殿

上の写真の右上に写っている奉安殿について調べてみました。(柚木)

奉安殿(ほうあんでん)とは、戦前の日本において、学校に下賜された「御真影(ごしんえい)」(天皇と皇后の写真)や教育勅語などを安置した建物である。敗戦後、GHQ(アメリカ)の指令により「御真影」は焼却され、奉安殿は解体・もしくは地中に埋められることになったらしい。

龍門小学校の名前の由来

龍門小学校の創立百周年記念誌(昭和五十二年発行)に元小山田区長の藺田義則氏が龍門小学校の命名について(古老のいい伝え)として寄稿されていますので原文のまま紹介します。

龍門小学校の名前の由来について祖先の方々からいい伝えられたことをまとめてみました。

現在の毛上部落から南へ約八百メートルの所に「龍門滝」があります。

昔、支那の国(人民共和国)から日本に渡って来た人が、龍門滝を観てこれを鑑賞し、中国にある龍門滝に似ているところから龍門という名が起ったとのことでありました。

その滝の所から西の方へ約五百メートルの所に昔の横川街道があり人の往来も多かったとのことですが、今はスピード時代の車社会となって人通りも少ないため荒れた道と変わっています。そしてその街道から北へ三百メートル

ル行ったところから、カーブの多い石畳の坂道が六百メートル余りあって、その坂を、龍門司(寺)坂と呼んでいる。歴史の本や知人の話によればいろいろな呼びかたがあるようです。例えば、大名坂、または龍門坂(たつもんざか)、或は、龍門司坂とありますが、私どもの部落では龍門坂と呼んでいます。

龍門坂が昔からいい伝えられた真実の名前ではないだろうか聞いています。

それから、この龍門坂に登り終わった場所が毛上部落であり、この部落を一時は「龍門」と呼んでいたところから、毛上部落に学校が設置されるとき、部落名「龍門」の名をとって、「龍門学校」と名付けられたと聞いております。

その頃が、明治九年の初めであり、それまでは「寺小屋」と呼んでいたそうです。

即ち、明治九年、毛上の私宅(犬童英輔氏)の門札を「龍門学校」としたのが、龍門小学校の名の起りだといひ伝えられているようです。

波乱万丈の
戦後六十五年
を回顧して



昭和29、33年
龍門小教諭
上齒 悟
先生

昭和二十年！ 敗戦の年になるとは知らず、僕等は旧制加治木中学校の四年生でしたが、学業の外に食糧難の為の開墾や十三塚原の飛行場（特攻基地）造りにと寝食を共にしながら汗を流し国家の為に働いていました。

その年の一月、戦時学徒動員令が下り四年・五年生三百名が軍人の出征同様にそれぞれの家庭で水盃をして別れ、空襲が激化しつつあった名古屋の中島航空機製作所へ行き、飛行機の製作に従事していました。

ところが近くの工場が次々に爆撃にあつて多くの他校の学徒生が爆死したので、命からがら富山県福野町へ工場と共に疎開しました。旧紡績工場を改造した工場で腹ペコでも

国家のためにと働きました。冬の富山県は二メートル近く豪雪だったので、南国生まれの僕達には最初は珍しくて大喜びでしたが、暖房施設の無い部屋なので身にこたえる寒さには毎夜嘆いたものでした。

戦時中はデマには厳しく機密厳守の時代でしたが、時おり鹿児島地方が空襲を受けたとの情報がひそかに伝えられるたびに、敗戦の予感におののいたものでした。しかし、マツチ箱の大きさの爆弾で軍艦が木っ端微塵になる爆弾（原爆？）が出来たから日本は勝ツンだと聞かされていきました。

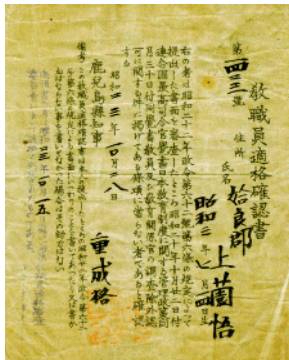
また、飛行機が出来ると飛行場まで行つて祝典に参加し、世界一早い飛行機だから日本は強いのだと聞かされたり、寒天の菓子折りを貰つて大喜びしたりして戦意を高めて働いたものでした。

でも、三月になると僕等四年生も五年生と共に国家の命令で卒業させられ、工場で働きながら軍人としての徴兵令（赤紙）を待つ身となりました。

幸か不幸か八月に終戦となり空襲で変わり果てた故郷へ帰つてきました。

昭和二十三年、永原小学校で教員としての生活が始まりました。当時は、ジープに乗った米兵が突然学校に来て、戦時中の教育をしていないか？教科書や教材の査察に来ていました。拳銃を持った兵隊に教員はドキドキしていたのですが、子供達はジープや米兵にむらがり、初めて見るチュウインガムをもらつて喜んでいる姿を見て、敗戦の実感を見せつけられたものでした。

また、連合軍の支配下にあった日本だったので、公務員になるためには、左の



写真のようにGHQの資格審査に合格しないと教員になれない時代だったのです。だから、教育界は日本の戦時中の教育はすべて悪であつて、アメリカ

的教育が新教育のすべてであるかのごとき風潮に流されていったように思います。混乱していた教育界に、やっと文部省が教育指導要領を出し、日常の具体的教育内容を出したので、現場の教員は落ち着きを取り戻しました。

昭和二十九年戦後の新教育が各学校で順調に実施され始めた頃、僕は龍門小学校へ転勤してきました。此の年の教員の歓送迎会で、本会の創設者の一人であつた川原先生が龍門小を退職して大阪の新聞社へ転職されると赴任してきた僕と初めての会席でお会いしました。

此の頃の龍門小は、新富校長・柚木教頭のもとに、森口・宇留島・肥後・奥村・隈元・早淵・西元・鮫島・重森・松浦・中間・白尾の各先生や事務として川原さん等が勤務されていきました。また、龍門中は県下でも伝統ある男子バレーの全盛時代で、しかも肥後先生のご子息もエースだったので僕等まで鼻高々で応援をしたものでした。さて、戦後の新教育として統計教育と言う指導法

が入ってきましたが、龍門小学校が県教委の指定校となったので、県や文部省の指導者を呼んで三年がかりで全校で研究しました。そして、その研究の結果を研究授業と研究資料で発表しましたが、当日は全国から先生方が見学にきまして、一躍、統計教育の有名校になりました。お陰で、広島・新潟の全国大会にも参加することができました。（つづく）



右の写真は、昭和31年頃の龍門小学校の教職員です。



会員消息



返信葉書で寄せられたコメントを敬称略にてご紹介いたします。

■ご案内を頂き、ありがとうございます。当日は、生憎先約(姪の婚礼)がありますので失礼させて頂きます。ご盛会を心から祈念しております。(東京加治木会)

(会長 長谷場純一)

■4月20日頃から与論島へ帰省しています。申し訳ありません。(奄美旅行センター 本園金盛)

■昨秋の叙勲で瑞宝双光章をいただきました。これも皆様に支えられ永年警察業務に従事できたことを感謝し、厚く御礼申し上げます。

(東久留米市 石野忠)

■昭和35年卒同窓会にも出席致します。毎年お手数をかけまして真に有難度うございます。今回は我々35年卒の同窓生も参加する様で賑やかな会になればと期待致します。

(千葉市 猪俣東男)

■御盛会を祈ります。老体にムチ打って毎日ウォーキング等にはげんでいます。小山田川の幼い頃を思つては房総半島に釣りに行っています。

(船橋市 猪俣眞人)

■幹事・世話役 本当にご苦労さまです。裏働きの方がおられるからこそ、表舞台が回るのです。今回もお世話になります。どうぞよろしくお願ひします。(調布市 猪目寛)

■立春は過ぎ春はすぐそこにきておりますが、リビングより覗む富士山は真白の雪化粧です。でも庭の隅にふきのとうが、あちこちに緑の頭を出しております。後になりましてが大変な作業等ありますがございませす。又皆様とお会出来る事感謝申し上げます。(御殿場市 大村紘子)

■ぎんなん販売への御協力ありがとうございました。益金3万円を小学校へ寄附しました。(始良市 上村和巳)

■「関東小山田会」のご案内をいただきありがとうございます。小生、只今、少々病んでおります故、出席できません。会員の皆様のご多幸と小山田会の益々の発展・隆盛を祈念いたしております。

(稲城市 猿渡義弘)

■残念ですが帰郷のため欠席させていただきます。

(久喜市 篠崎美佐子)

■毎回ご案内頂き誠に有り難うございます。次回はぜひ出席したいです。

(静岡県函南町 藪田隆)

■先日はうれしいお便りありがとうございました。月日の経つのは早いですが、皆さんの元気なお顔に合える事を楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。

(市川市 田口キヨ子)

■お久しぶりです。35年卒の皆様がご集合されるとのことですが、お逢いできず残念です。我々36年卒も近々、皆さんとお逢いしたいものです。小山田会の皆様にもよろしく！(東大阪市 竹林淳子)

■案内有難うございます。昨年大動脈解離の手術を行ないリハビリ中に付き欠席させて頂きます。よろしくお願ひ申し上げます。

(仙台市 田中薫)

■都合により出席出来ません。宜しくお願ひ致します。

(府中市 中原スミ子)

■2人共、体調良好ですが、夫は歩行困難があり欠席します。千葉に46年住み、地域の皆さまとそれなりに楽しく遊んでいます。目黒は乗換えもあり次回からも欠席します。で、連絡不用です。

(千葉市 島中睦美・島中ミチ子)

■1週間に5日位グラウンドゴルフをやって楽しんでます。皆様によりしくお伝え下さい。

(君津市 秀島トミ子)

■関東小山田会の役員の皆様、会員の皆様にはご清祥のこととお喜び申し上げます。小生、現在療養中にて参加出来ません。会のご盛会を心より祈念します。(市川市 古江哲夫)

■用事が重なってしまい今回も欠席させて頂きます。

(浜松市 前田耕造)

■週2日のボランティアと2週間に1回の学校を軸に、野菜作りやゴルフ等が中心の生活です。最近歴史に興味が出てきて、パソコンの前に座っていることも多いのですが春になると自然に外にいることが多くなるでしょう。皆様どうぞよろしくお伝え下さい。(市原市 前田幸雄)

■相変わらず野菜作りを続けています。(鎌倉市 宮脇勇)

■度々会の御連絡頂戴致しましてありがとうございます。野暮用に逐われなかなか参加出来ず残念でございますが元気に致している限りいつの日にか参列出来ますことを楽しみに致しております。会のみますの御盛会お祈り致します。

(浜松市 森永美智子)

■腰痛で歩行困難のため、盛会を祈ります。皆様によりしく。(町田市 本山彦一)

■いつもお世話になります。94才の義母の世話で毎日忙しくして返事が遅れて申し訳ありません。次回は出席したいと思つて居ります。

(富士吉田市 山本信子)

原稿募集中!

小山田の思い出、小山田のニュース、最近の状況、旅の思い出、など何でも結構です。ご投稿をお待ちいたします。素敵な写真等を添えて頂くと助かります。左記にてお送りください。

〒212-0057
川崎市幸区
北加瀬3-15-26
(事務局) 新富 征人 まで

編集後記

このたびの東日本大震災は、誰も予測できなかった戦後最悪の大災害となり、ニュース報道等を見るにつけ、胸が痛む思いです。

このような時、人間の絆を強く感じると共に、助け合いの精神の偉大さ大切さを改めて思い知らされます。

幾重にも絆を築き・・・「関東小山田会」もその絆の一つとして、安心安全な日々を過したいものです。

(柚木)

